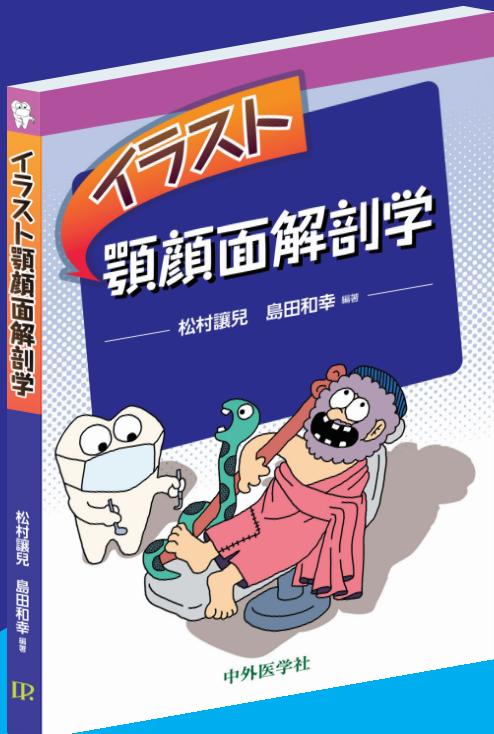


イラスト

「暗記」をせずに、解剖学が
身に付く「最強」テキスト！

イラスト 顎顔面解剖学



[編著]

松村譲兒

杏林大学医学部解剖学教室 教授

島田和幸

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座
人体構造解剖学分野 教授（鹿児島大学歯学部長）

- ISBN978-4-498-00040-7 • B5判260頁
- 定価4,410円(税込)

大好評の「イラスト解剖学」の待望の姉妹編！

歯科学生が限られた時間の中で要領よく頭頸部の解剖学を学べるよう、絶妙のイラストを駆使してわかりやすく解説した新しいテキスト。局所解剖学の知識を歯科臨床全体の一部ととらえ、さらに全身的な系統解剖学との関連性を常に念頭に置いて記載するように構成。

医学書としてかつてないほど
の脱力系(でも正確!)なイラスト

各項は1頁 or 見開きが基本。
どこからでも読める！

存的な処置として歯髄の診断と治療が重要なポイントであるが、この処置は根管内を直視
ができないため、治療操作上非常に困難をきたすことが多い。そこで、歯髄 dental pulp,

canal の構造上の解剖学的形態を十分に理解しておく必要がある。

pulp cavity とは、歯の内部にある腔洞であり、その周囲は象牙質が閉む。歯髄腔は歯冠
する髄室 pulp-chamber と歯根内にある根管とに分ける。前歯では髄室は下行して根管に
が、多根歯である臼歯では1つの髄室と数本の根管となる。髄室の咬合面に対する壁

occlusal wall of the pulp-chamber (臨床的には天蓋)、これに対向する壁は髄室床と
室角は咬頭の直下で髄室蓋の隅の所をいい、その部の歯髄を髄角 horn of the pulp とよぶ。
は髄室床 floor of the pulp-chamber に開き、根管の入り口である、
apical foramen に終わる歯髄腔の一部であり、これを冠部、中央部、

または、
は根の先
の変化】

・ 内容見本・

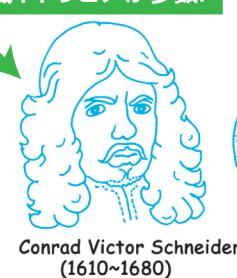
に起始する主根管の枝である。
髄の内に入りこむ。

簡潔かつ不足のない解説は、
重要語を強調表示

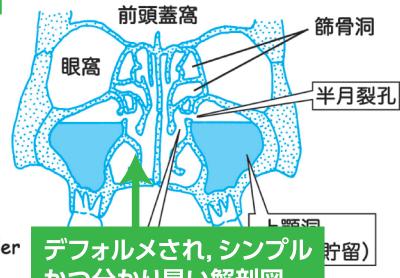
鼻腔粘膜から続く上顎洞の粘膜は
皮下の粘膜固有層、骨膜とセット
でシュナイダー膜という。

さりげなくちりばめられた
関連知識やトリビアが多数！

上顎洞は
ハイモア洞
ともいいうよ



Conrad Victor Schneider
(1610~1680)



デフォルメされ、シンプル
かつ分かり易い解剖図

ヒトの副鼻腔は、英國の Highmore (1613~1685) が初めて書物に記載し、彼の名前を
ハイモア洞とよばれる。副鼻腔の内面は、気道のほかの部位と同様で、鼻腔粘膜から連続